

〈研究ノート〉

# 中国の高等教育における日本語教育考

## —安徽省合肥市の5大学での聞き取り調査を通して—

大塚 薫

### 要 旨

2013年10月に、高知大学の海外事務所である高知大学安徽事務所が協定校の中国安徽省にある安徽大学内に開設された。それに伴い、日本語教育センター及び海外事務所との活動の一環として中国安徽省合肥市内にある安徽農業大学、合肥学院、安徽外国語学院、安徽中澳科技職業学院、安徽城市管理職業学院に赴き、進学説明会を開催するとともに中国における日本語教育事情の調査を実施した。本稿は、中国安徽省合肥市内の日本語教育の実情を概観するとともに、今後求められ中国の高等教育における日本語教育のあり方についての提言をまとめたものである。

### 【キーワード】

中国、高等教育、日本語教育、調査、提言

### 0. はじめに

人口大国である中国は、日本語教育分野においても全世界の学習者数の4分の1を占める。日本においても、独立行政法人日本学生支援機構の「平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果」<sup>1)</sup>によると、2014年5月1日現在、日本全体の留学生受入れ総数184,155名に対して中国からの留学生数は94,399名で、全留学生に占める割合は51.3%となっている。高知大学においても、2015年5月1日現在、全留学生154名中、中国人留学生は75名(48.7%)で、ほぼ半数を占めている<sup>2)</sup>。

高知大学のある高知県と中国の安徽省は、1994年11月に姉妹都市として友好提携を締結して以来、さまざまな分野で国際交流を推進してきた。この交流を基盤として高知大学と安徽省の省都合肥市にある安徽大学は、2002年5月に大学間協定を結び、研究者及び学生の相互交流や学术交流等を中心に重点的な交流が行われてきた。2007年度には、双方の協力の下、高知大学に高知大学中国語センターを、安徽大学に安徽大学日本語教育センターを開設するための覚書に調印し、両大学の連携と交流をより強固なものとした。そし

て、2012年4月から安徽大学の専任教員が高知大学中国語センターに、2013年4月から高知大学の専任教員が安徽大学日本語教育センターに派遣され、2013年10月には高知大学の海外事務所である高知大学安徽事務所が安徽大学内に開設された。それに伴い、中国における高知大学の海外拠点として学術交流及び学生交流に加え、日中双方の学生の語学力養成や実地指導、高知大学の中国内における広報活動、同窓会活動や産学連携への支援を行うための窓口及び教育、養成の基地という役割を担うことになった。

これらの職務、業務内容に伴い、海外事務所の活動の一環として中国安徽省合肥市内にある高等教育機関である安徽農業大学、合肥学院、安徽外国語学院、安徽中澳科技職業学院、安徽城市管理職業学院に赴き、進学説明会を開催するとともに中国の高等教育機関における日本語教育事情の調査を実施した。

本稿は、中国安徽省合肥市内の高等教育で行われている日本語教育の実情の調査を通して、今後求められる中国の高等教育における日本語教育のあり方についての提言をまとめたものである。

## 1. 中国における日本語教育の現況

国際交流基金(The Japan Foundation)が行った「2012年度日本語教育機関調査」において、2012年現在、海外の136か国(厳密には128か国と8地域)で日本語教育が行われており、機関数は16,046機関、教師数は63,805人、学習者数は3,985,669人であった。地域別には、3者とも東アジアが最も多く、機関数で全体の41.3%、教師数で61.1%、学習者数で54.1%を占める。とりわけ、中国は教師数、学習者数とも最も多く、前者は16,752人(全体の26.3%)、後者は1,046,490人(全体の26.3%)という結果になった。また、中国における機関数は、1,800機関で韓国の3,914機関、インドネシアの2,346機関に次いで多い。

このように、2012年度現在、中国の日本語学習者は約104万人に達するが、これは初・中・高等教育機関や民間の語学学校等の機関に所属しながら学習している人数であり、実際は独学等を含めるとかなりの人数になることが予想される。この背景としては、長年の日中の交流に加え、「日中間の緊密な経済関係が、日本留学、日系企業への就職等の実利的なニーズを高い水準で維持していること、日本のアニメ・マンガ・ファッション、ポップカルチャー、観光等の側面で日本文化への興味・関心が高まりつつあることが挙げられる」<sup>3)</sup>。

国際交流基金(2015)の「日本語教育 国・地域別情報 2014年度中国」から中国における日本語教育の沿革を述べていく。

中国での日本語教育の歴史は、明代に端を発するが、近代以降は清末から民国初期(1900年前後)、さらに1930年代に当時の日本から先進的な技術、思想を学ぶ必要から日本語学習のブームが訪れた。この時期にすでに多くの日本語教材、辞書、研究書が出版されている。

その後1930年代後半から1940年代は、抗日戦争、国共内戦、新中国成立の時期に当たり、東北地方(旧満州)の一部の地域を除いては、日本語教育は停滞することになる。

1949年の新中国成立後は、中央の外国語教育重視政策に基づいて1950年代から1960年代前半にかけて外国語専門学校や総合大学に日本語専攻が設置された。また、1950年代中頃には、北京大学東方言語系の陳信徳教授を中心に文法書、教科書が編纂され始め、LT貿易を背景に60年代前半には日漢辞典の編纂、大連日本語専科学校(現在の大連外国語大学)の設立が行われた。こうして徐々に日本語教育が社会に浸透しつつあったが、1966年からの文化大革命により全く途絶えることとなった。

1972年の日中国交正常化により第1次日本語ブームが訪れ、多くの大学で日本語教育が開始された。1973年から各大学で日本語の教科書や辞書の編纂が始まり、ラジオの日本語講座の放送も始まった。1979年には現在の東北師範大学で日本留学生(学部)のための予備教育が開始された。また、1980年に当時の大平首相の提唱を受ける形で日中両国間政府の合意に基づく「在中国日本語研修センター」(通称「大平学校」)が設立され、1980年から1985年までの5年間に計600名の大学日本語教師の再教育を実施した。

1980年代になると、まず中等教育、次に高等教育での日本語教育シラバス整備が始められた。また、テレビ日本語講座の放送も始められ、1980年代半ばには第2次日本語ブームとなった。さらに1985年より上記「大平学校」が発展的に解消する形で「北京日本学術センター」が設立され、日本語教師の再教育と大学院修士課程の学生の教育を平行して実施するようになった。

1990年代には、各教育段階でのシラバス整備の結果を受けて、それに準拠した教材が次々に出版され、日本語は英語に次ぐ第二の外国語の地位を確立した。

2000年代に入り初等・中等教育機関では学習者数が一時的に減少したものの、その後は高等教育機関や学校教育以外の機関を筆頭に学習者数の大幅な伸びが見られた。特に高等教育機関では職業大学（短期大学）における日本語学部が増加し、また、第二外国語として日本語を履修する学生も増えている。2012年度日本語教育機関調査では、2009年調査時と比べ、日本語教育機関数、教師数、学習者数のすべてにおいて伸びを見せ（機関数1,800、09年比5.4%増。教師数16,752人、09年比7.3%増）、学習者数は1,046,490人（09年から219,319人、26.5%増）と100万人の大会を超え全世界で第1位となった。

このように、「中国における日本語教育の特徴は、高等教育段階の学習者数が多く全体の64.9%を占めること、中・上級レベルに達する学習者が非常に多いことである。日本語能力試験の基準で言えば、中等教育あるいは大学の第二外国語教育でN4、第一外国語教育でN2、専門教育では在学中にN1レベルに達する。教師の日本語力も全般に高く、大学教員の場合、日本で学位を取得した者も少なくない。また中等教育の教師においては訪日経験者は少ないが、日本語で十分に意思疎通できる日本語力を持っている」。

### 1.1 中国の高等教育における日本語教育の概況

中国の教育制度も日本同様、初等教育が6年間、中等教育のうち中学校が3年間、高等学校が3年間、高等教育として大学（総合大学）と学院（単科大学）が4年間、短期大学が2～3年間という構成である。初等教育、中等教育（中学校）までの9年間は義務教育期間となっている。

国際交流基金(2015)の「日本語教育 国・地域別情報」によると、中国の高等教育の日本語教育の状況は学部レベルでは日本語専攻と非専攻第一外国語、非専攻第二外国語に分類され、それぞれ以下のように述べられている。

#### ・日本語専攻

日本語学科の新設や既存学科の定員増で、学生が急増している。大学入学時に日本語をゼロから始めて、3年次に日本語能力試験N1に達する者が多い。全体的に研究志向よりも実利志向（ビジネス、観光等）が高く、卒業後は日系企業に就職する学生も多い。また近年は日本語力だけでは就職が難しくなっており、英語、経営、コンピューター等を

併せて学ぶ学生が増えている。2つの学位を取得できるダブルメジャー制の導入や、日本の大学と提携し、日中双方の学位を取得できる2+2制度等を打ち出す機関も増えてきている。また、日本語専攻を卒業して日本の大学の修士課程に進学し、上記のような語学以外の専門を専攻する学生も少なくない。

#### ・非専攻第一外国語

原則として中等教育で学習した外国語を継続して履修する必修科目で、教学大綱（シラバス）で定められた4級試験の合格が学位取得の条件となっている。第一外国語の履修者は中等教育での実施状況を反映しており、英語が大多数を占め、日本語、ロシア語の順になっているが、中等教育の生徒総数の減少で日本語を第一外国語とする学生も年々少なくなっている。到達目標は読解・文法が日本語能力試験N2程度で、聴解・作文は同N3程度である。

#### ・非専攻第二外国語

上述の第一外国語の単位取得後3年生から履修できるようになっており、現在のところ第一外国語での英語履修者を中心に日本語を選択する者が最も多い。

#### ・大学院

社会全体の高学歴志向により、大学院進学希望者が急増しているため、ここ数年大学院の設置が相次いでいる。日本語・日本文学研究科だけでなく、外国語・外国文学研究科で日本語関連の研究をすることができる機関も増加している。日本語・日本文学関連の研究ができる大学は修士課程では90機関、博士課程は20機関以上ある。

なお、日本語非専攻の修士・博士課程でも必修の第一・第二外国語科目として日本語を開設するところも多い。

以上のように、中国における外国語教育としての日本語教育は、初等、中等、高等教育に関わらず、英語を除く他の外国語より盛んに行われている。近年、中等教育では第一外国語としての日本語学習者は減少傾向にあるが、高等教育における日本語教育の機関数及び学習者数は依然増え続けていることが分かる。また、高等教育機関における日本語学習の目的も「将来の就職」や「受験準備」、「日本留学」という実利志向がうかがえるものの、日本語や日本に関する知識志向も高い数値を示しており、日本そのものに関する興味

が学習動機につながっているのが見られる。

## 1.2 中国の高等教育における日本語教育の教材

国際交流基金(2015)の「日本語教育 国・地域別情報」によると、中国の高等教育のシラバス(教学大綱)は、「これまで日本語専攻の基礎段階(1, 2年生用)と、非専攻の第一外国語、第二外国語のものがあり、それに準拠した教科書がそれぞれ出版されていた。2000年に日本語専攻高学年(3, 4年生用)用のシラバスが完成し、非専攻第一外国語のシラバスも改訂された。また、第一外国語履修者に義務づけられている到達試験(大学四級考試)のためのシラバスや、大学院入試のためのシラバスもある」とあり、高等教育に関しては日本語専攻、非専攻第一外国語、非専攻第二外国語について以下のように述べられている。

### ・日本語専攻

いくつかの有力大学がシラバス準拠の教材をそれぞれ作成しており、その他の大学はそれを利用することが多い。広く使われている教材としては、『新編日語』(上海外国語大学)、『新編基礎日語』(北京大学)等がある。東京外国語大学の初級用教材(旧版)に中国語の説明をつけたもの(『新編日語』吉林教育出版社、『新日本語』山西教育出版社)も広く使われている。また、1998年に『新日本語の基礎』が、2002年には『みんなの日本語』が、中国国内でも正式に出版された(外語教学与研究出版社)ことから、初級用教材として採用するところもある。

中・上級は、旧版の『日語』5-8(上海外国語大学)が広く使用されている他、日本で出版された教材や自主制作教材を使用することが多かったが、高学年用シラバスの制定を受け、『総合日語』(北京大学出版社)等これに準拠した主教材が出版された。

### ・非専攻第一外国語

『新大学日語』(高等教育出版社)シリーズが広く採用されている。

### ・非専攻第二外国語

シラバス準拠の教材『大学日語(第二外語)』高等教育出版社等も出版されているが、一般成人向けの『中日交流標準日本語 初級』『中日交流標準日本語 中級』各上下2冊や『中日交流標準日本語 会話編』(いずれも人民教育出版社)を使用するところが多い。

また、「近年マルチメディア教材の使用が推奨されており、特に都市部や新設の機関では設備の整っているところが増えてき」ており、「日本語教育関係者も関心は高く、各地でCAI教材の開発が始まっている」。「大学用の教科書として新しく出版された教材の中には、新しい試みもいくつか見られる。たとえば、上述の『新大学日語』（前出）の「聴解・会話」付属のCDにはMP3が採用されており、同じく上述の『初級総合教程』には、自習用・教授用、さらにはオンラインでの学習にも利用可能なCD-ROMが付いている」とのことである。

### 1.3 中国の高等教育における日本語教師

国際交流基金(2015)の「日本語教育 国・地域別情報」によると、中国の高等教育における日本語非母語話者日本語教師は「都市部においては修士修了以上の学歴が必要とされている。また、日本で修士や博士の学位を取得して帰国した教師が定着しはじめている。しかし日本語教育を専門に学んだ日本語教師は少なく、教師研修<sup>4)</sup>が大きな課題となっている」とのことである。日本語母語話者日本語教師は、「公的には特に資格上の制限はないが、最近では420時間以上の養成講座受講歴、日本語教育能力検定試験合格、日本での教授歴、日本語教育関係の学位、特に修士以上の学歴等を要求する機関が増えている」と言う。

また、日本語母語話者日本語教師の雇用状況とその役割については、以下のような記述がある。

現在中国で雇用されている日本人教師は、日本の機関（JICA、日中技能者交流センター、文部科学省 REX プログラム、中国の機関と姉妹関係にある学校等）を通して派遣されている者と、個人契約の者がいる。2012年調査によると母語話者教師は2,372名おり、教師数の約14%を占めている。定年を迎える団塊の世代が第二の人生として中国で日本語教育に携わるケースも増えてきたが、最近では年齢制限を設ける機関や省もあると聞く。日本の提携校から新卒者を採用しているところも多い。

一般的には日本人教師は数年で交替するため、各機関のコースデザイン等に関わることは非常に少なく、会話や作文等アウトプット型授業を担当することが多い。

さらに、日本語教育関係のネットワークとしては、「正規の学校教育につ

いては、教育部に直結した形で教育段階別に関係者のネットワーク」が存在し、「高等教育では、教育部に日本語専攻・非専攻別の外国語教育指導委員会日本語部門があり、シラバス制定、教材制作、試験問題作成等に責任を持っている。さらに、(中略)『大学日語教学研究会』を組織して、研究活動や学会活動を行っている」とのことである。また、「中国では有志による教師会や研究会の正式な設立は難しい状況だが、地域の教師による情報交換や勉強会を目的としたネットワーク活動が盛んになってきており、北京、上海、南京、天津、瀋陽、大連、長春、西安、無錫、合肥、西寧等には日本人教師を中心とした教師会がある」とあり、合肥市内でも日本語教育関係者が年に何度か集まり、勉強会や互いの授業を見学し合うピア・レビュー活動、情報交換会等を実施していた。

以上のように、日本語を教える日本語母語話者(ネイティブ)教師は高等教育の場合、永続的に一つの機関で教えるわけではなく、一年ごとの契約となる。そのため、立場が不安定であり各機関の根幹で教育に従事することができないとともに、教師研修に課題を有していることが見受けられる。

## 2. 中国の高等教育における日本語教育

安徽省合肥市は、上海から400キロほど西に位置し高速列車で3時間の距離にある。合肥市内の大学で日本語学科を有している大学は12校あり、内訳は、211工程<sup>5)</sup>の国家重点大学に指定されている四年制の国立総合大学である安徽大学を筆頭に、四年制の国立総合大学である安徽農業大学、四年制の市立総合大学である合肥学院、四年制及び三年制の私立総合大学である安徽外国語学院、三年制の国立短期大学である安徽中澳科技職業学院、三年制の省立短期大学である安徽城市管理職業学院、その他、私立四年制大学である安徽新華学院、安徽三聯学院、省立短期大学である万博科技職業学院、安徽国際商務職業学院、安徽工商職業学院等である。安徽省合肥市には、四年制大学が14校、短期大学が32校、高等専門学校が2校の計48校の普通高等教育機関があることを鑑みると、日本語学科の設置されている大学は決して多いとは言えない。しかし、その他の大学でも第一・第二外国語として日本語を学習できる機会には恵まれており、そのための課程や教員が設けられている。また、合肥市内にある国家重点大学の中国科学技術大学では、日本文化や日本語に興味のある学生が「日本語サークル」を結成し活発な活動を繰り返している例も見られる。



今回の中国の高等教育における日本語教育事情調査は、筆者が安徽大学に赴任していた2014年4月から5月にかけて行われた。具体的には、安徽農業大学、合肥学院、安徽外国語学院、安徽中澳科技職業学院、安徽城市管理職業学院に赴き、進学説明会を行った上で日本語の授業を見学するとともに各大学で行われている日本語教育に関して主任の教員に聴き取り調査を行ったものである。

## 2.1 安徽農業大学における日本語教育の概要

安徽農業大学は、1928年に中国安徽省合肥市に設立された農学を中心とした国立大学で、2014年現在、15学部77学科に教員1,684名が教鞭を執り、およそ21,177名の学生が学んでいる。安徽農業大学には外国語学院(日本では外国語学部に対応)に英語、フランス語、日本語学科があり、日語系(日本では日本語学科に対応)は2004年度から創設され、現在1年生が43名、2年生が53名、3年生が52名、4年生が29名、合計177名の学生が在籍している<sup>6)</sup>。日本語学科では、日本語を基礎段階から体系的に学習した上でビジネス日本語か観光日本語のいずれかのコースが選択できるようになっている。教員は日本語非母語話者(ノンネイティブ)が8名おり、日本語母語話者(ネイティブ)が2名いる。日本語母語話者教員は、知り合いによる紹介や応募による現地採用の教員であり、主に作文や会話、視聴解、日本概況、新聞講読等の実用的な科目を担当している。そのうちの1名は、年齢による就労ビザの取得に制限があり<sup>7)</sup>、以前は正規の契約であったが現在は宿舍や光熱費の提供のみを受け、ボランティアで活動している。

### 2.1.1 安徽農業大学の日本語教育カリキュラム

安徽農業大学外国語学部日本語学科では、2014年現在、4年生までの卒業要件として180単位を取らなければならないが、その中で日本語の授業科目の単位数は122単位である。表1に日本語学科のカリキュラムを挙げる。

表1を見ると、ゼロ初級で大学に入学してきた学生に対して組まれたカリキュラムであることが分かる。「基礎日本語」と「上級日本語」は、カリキュラムの根幹を占めている科目であり、そこで使用されている教科書は、高等教育の日本語専攻者向けの基礎段階並びに上級者用のシラバス(教学大綱)に準拠したものが使用されている。使用されている教科書については、全ての科目にわたって調査することはできなかったが、「日本語読解」の教科書に

表1. 安徽農業大学外国語学部日本語学科の日本語教育科目

課程	区分	科目名	単位数	学期 <sup>8)</sup>	時間数	教科書
学科 基礎	必修 科目	基礎日本語 1	8	1	8コマ/週	『新編日語』1 上海外国語教育出版社
		基礎日本語 2	8	2	8コマ/週	『新編日語』2 上海外国語教育出版社
		基礎日本語 3	8	3	8コマ/週	『新編日語』3 上海外国語教育出版社
		基礎日本語 4	8	4	8コマ/週	『新編日語』4 上海外国語教育出版社
		日本語会話 1	2	1	2コマ/週	
		日本語会話 2	2	2	2コマ/週	
		日本語会話 3	2	3	2コマ/週	
		日本語会話 4	2	4	2コマ/週	
		日本語聴解 1	2	2	2コマ/週	
		日本語聴解 2	2	3	2コマ/週	
		日本語聴解 3	2	4	2コマ/週	
		日本語文法 1	2	3	2コマ/週	
		日本語文法 2	2	4	2コマ/週	
		日本語読解 1	2	4	2コマ/週	『日語閲読』 上海外国語教育出版社
	日本語読解 2	2	5	2コマ/週	『日語閲読』 上海外国語教育出版社	
合 計			54		54コマ/週	
専門 教育	必修 科目	上級日本語 1	6	5	6コマ/週	『日語総合教程』1 上海外語教育出版社
		上級日本語 2	6	6	6コマ/週	『日語総合教程』2 上海外語教育出版社
		上級日本語 3	6	7	6コマ/週	『日語総合教程』3 上海外語教育出版社
		日本国概況	2	5	2コマ/週	
		日本語翻訳 1	2	5	2コマ/週	
		日本語翻訳 2	2	6	2コマ/週	
		日本語視聴解 1	2	5	2コマ/週	
		日本語視聴解 2	2	6	2コマ/週	
		日本語視聴解 3	2	7	2コマ/週	
		日本語作文 1	2	6	2コマ/週	
日本語作文 2	2	7	2コマ/週			
合 計			34		34コマ/週	
専門 選択 教育	ビジ ネス 専門	ビジネス日本語 1	2	5	2コマ/週	
		ビジネス日本語 2	2	6	2コマ/週	
		日本語ビジネス文書 1	2	6	2コマ/週	

	必修 科目	国際貿易実務 1	2	6	2コマ/週	
		国際貿易実務 2	2	7	2コマ/週	
		ビジネス日本語マナー	2	7	2コマ/週	
		日本経済入門	2	7	2コマ/週	
		日本語文書翻訳	2	7	2コマ/週	
合 計			16		16コマ/週	
専門 選択 教育	観光 科目	観光ガイド基礎知識 1	2	5	2コマ/週	
		観光ガイド基礎知識 2	2	6	2コマ/週	
	必修 科目	観光日本語	2	6	2コマ/週	
		観光ガイド業務 1	2	6	2コマ/週	
		観光ガイド業務 2	2	7	2コマ/週	
		社交・マナー	2	7	2コマ/週	
		ホテル管理	2	7	2コマ/週	
		ガイド実践(日本語)	2	7	2コマ/週	
合 計			16		16コマ/週	
実践 必修	必修 科目	卒業実習・実習報告	12	8	12週間	
		卒業論文	6	8	6週間	
合 計			18		18週間	

関しても、高等教育のシラバスに準拠して作られた教科書の副教材として出版されたものを使用している。カリキュラムは、1・2年生で日本語の文法事項を積み上げ式で学習していき、それに即して「話す・聞く・読む・書く」の四技能も段階的に養成していくよう構成されている。そして、3年生でビジネス日本語コースか観光日本語コースを選択し、前者は国際貿易を、後者は観光ガイドに特化した理論と実践的な日本語力を育成している。観光日本語コース内の「ガイド実践」という科目では、毎年3年生の第2学期に「徽園」という安徽省の17の地域にある特徴的な風景や建物を配置した公園でガイド実習を行っている。ガイドは合肥市内に住む日本人教員や日本企業の駐在員、日本人留学生を対象に学生が4、5名のグループに分かれて2時間半程度日本語で実施する。また、実践必修の中の「卒業実習」では、「基礎日本語」の授業内でグループごとに日本語を教える45分間の模擬授業を行っている。さらに、主専攻の日本語に加え、副専攻として経済管理学部で国際経済や企業管理を専攻する学生もいる。卒業後の進路としては、毎年進学する

学生が5、6名おり、それ以外は日系企業と現地企業に半々の割合で就職するとのことである。

日本語の資格試験については、安徽農業大学では卒業要件として特に定められてはいないが、日本語学部全ての学生が2年生の第2学期に大学日本語専攻生能力試験(NSS)4級を、3年生の第1学期に日本語能力試験N1を、4年生の第1学期に大学日本語専攻生能力試験8級を受けるとのことである。また、観光日本語コースを専攻した学生の中にはガイド資格試験を受ける学生も数名いると言う。

### 2.1.2 安徽農業大学の要望事項

日本の大学への要望としては、短期交換留学制度の活用、ダブル・ディグリー制度や大学院への進学制度の樹立の3点が挙げられる。

安徽農業大学は、三重大学と学術・学生交流の協定を結んでおり、2012年度から毎年1名短期交換留学制度を利用して日本へ学生を派遣している。日本語を専攻している学生の中には留学希望者が一定数存在するため、今後は協定校を増やし学生に留学の機会を提供したいと考えている。また、双方の大学の学位が取得できるダブル・ディグリーに関しても2+2制度や3+1制度を農学分野において米国の大学と構築している。日本語分野に関しても協定校間で運用していければ、学生の日本語学習に対するモチベーションが高まり、日本現地における進学や就職につながっていくであろう。安徽農業大学の学生は、毎年2、3名が日本の語学学校で半年間ほど大学院への進学準備をした後、日本の大学院に進学しているので、中国国内で進学説明会や大学院の入学試験が受けられれば学生の経済的、精神的な負担が少なくなるとのことであった。高知県と安徽省は姉妹都市であり友好提携を結んでいるので、学術的な交流の方面でも制度が整うことを期待している。

さらに、安徽農業大学では、50名ほどの留学生が茶学や林学等の農学を学んでおり、バナナやルワンダ、ベトナム、パキスタン、米国等20か国から留学生を受け入れている。大学内に学生寮があり、国際交流学院で中国語を学習した後、専攻の勉強ができるので、今後日本の協定校からの留学生の受け入れ体制も整えたいとのことである。

### 2.2 合肥学院における日本語教育

合肥学院は、1980年に合肥連合大学として設立され、2002年に合肥連合大

学と合肥教育学院、合肥師範学校の三校が合併して新設された総合大学である。コンピュータ科学技術・経済・管理・機械工程・教育・芸術設計学部等15学部71学科に、2014年現在、教員942名が所属し、16,000名を超える学生が学んでいる。日本語学科は1992年に創設され、当初は「日本語」と「観光日本語」という三年制の学科に分かれ、不定期に募集されていた。その後、2005年に四年制の本科として認可され、2006年から学部生を募集し始めた。現在、合肥学院外国語学部には英語、ドイツ語、日本語、朝鮮語学科があり、日本語学科には、1年生から4年生まで各学年30名前後、合計126名の学生が在籍し、日本語・日本文化に関する専門領域を体系的に学習している。教員は日本語非母語話者(ノンネイティブ)が8名おり、日本語母語話者(ネイティブ)が1名いる。日本語母語話者教員は、知り合いの紹介により現地採用されており、主に作文や会話等のアウトプット型の科目を担当している。

### 2.2.1 合肥学院の日本語教育カリキュラム

合肥学院外国語学部日本語学科では、2014年現在、4年生までの卒業要件として240単位を取得しなければならず、その中で日本語の授業科目の単位数は154単位である。以下、表2に日本語学科のカリキュラムを挙げる。

表2. 合肥学院外国語学部日本語学科の日本語教育科目

課程	区分	科目名	単位数	学期	時間数	教科書
学科 基礎	必修	専門日本語概論	1.0	1	1.0コマ/週	
	科目	基礎日本語 1	9.0	1	9.0コマ/週	『基礎日語総合教程』1 高等教育出版社
		基礎日本語 2	9.0	2	9.0コマ/週	『基礎日語総合教程』2 高等教育出版社
		基礎日本語 3	9.0	3	9.0コマ/週	『基礎日語総合教程』3 高等教育出版社
		基礎日本語 4	9.0	4	9.0コマ/週	『基礎日語総合教程』4 高等教育出版社
		日本語聴解 1	1.0	1	1.0コマ/週	『基礎日語听力教程』1 高等教育出版社
		日本語聴解 2	2.0	2	2.0コマ/週	『基礎日語听力教程』2 高等教育出版社
		日本語聴解 3	2.0	3	2.0コマ/週	『基礎日語听力教程』3 高等教育出版社
		日本語聴解 4	2.0	4	2.0コマ/週	『基礎日語听力教程』4 高等教育出版社
		日本語会話 1	2.0	1	2.0コマ/週	『基礎日語口語教程』1 高等教育出版社
		日本語会話 2	2.0	2	2.0コマ/週	『基礎日語口語教程』2 高等教育出版社
		日本語会話 3	2.0	3	2.0コマ/週	『基礎日語口語教程』3 高等教育出版社
		日本語会話 4	2.0	4	2.0コマ/週	『基礎日語口語教程』4 高等教育出版社

		日本語閲読 1	2.0	3	2.0コマ/週	『日語泛読教程』1 高等教育出版社
		日本語閲読 2	2.0	4	2.0コマ/週	『日語泛読教程』2 高等教育出版社
		日本語閲読 3	2.0	6	2.0コマ/週	『日語泛読教程』3 高等教育出版社
		日本語閲読 4	2.0	7	2.0コマ/週	『日語泛読教程』4 高等教育出版社
		日本語作文 1	3.0	4	3.0コマ/週	『基礎日語写作教程』1 高等教育出版社
		日本語作文 2	2.0	6	2.0コマ/週	『基礎日語写作教程』2 高等教育出版社
		国際貿易実務	2.0	5	2.0コマ/週	
		ビジネス日本語会話	2.0	6	2.0コマ/週	
		ビジネス日本語作文	2.0	7	2.0コマ/週	
合 計			71.0		71コマ/週	
専門 教育	選択 必修 科目	上級日本語1	8.0	5	8.0コマ/週	『日語総合教程』1 上海外語教育出版社
		上級日本語2	6.0	6	6.0コマ/週	『日語総合教程』2 上海外語教育出版社
		上級日本語3	5.5	7	5.5コマ/週	『日語総合教程』3 上海外語教育出版社
		日本語視聴解	2.0	4	2.0コマ/週	
		日本国概況	2.0	4	2.0コマ/週	『日本』外語教学与研究出版社
		日本ビジネスマナー	2.0	4	2.0コマ/週	
		日本語翻訳理論・実践	2.0	5	2.0コマ/週	『日中翻訳教程』上海外語教育出版社
		日本語通訳理論・実践	2.0	6	2.0コマ/週	『中日通訳教程』初級 外語教学与研究出版社
		日本語新聞講読	3.0	6	3.0コマ/週	『新編日文新聞文章選読』南開大学出版社
		日本語応用作文	2.0	6	2.0コマ/週	『日語応用文大全』学林出版社
		異文化コミュニケーション	1.0	7	1.0コマ/週	
		日本語文学講読	2.0	7	2.0コマ/週	『日本近現代文学作品選析』上海外語教育出版社
		日本語言語学概論	2.0	7	2.0コマ/週	『日本語言』高等教育出版社
合 計			39.5		39.5コマ/週	
総合 実践 活動	必修 科目	インターンシップ	18.0	5	12週間	
		卒業教育	1.5	8	1週間	
		卒業実習	6.0	8	4週間	
		卒業論文(設計)	18.0	8	12週間	
合 計			43.5		29週間	

表2を見ると、安徽農業大学と同様、大学入学前は日本語を学習したことがないゼロ初級の学習者に対するカリキュラムであることが見受けられる。また、使用されている教科書に関しては、基盤科目である「基礎日本語」と

「上級日本語」は、高等教育の日本語専攻者向けのシラバス(教学大綱)に準拠したものである。聴解や会話、閲読、作文の教科書に関しても高等教育のシラバスに準拠して作られた教科書の副教材として出版されたものを使用している。さらに、カリキュラムに関しても入門時は基礎文法を学習するとともに、聴解・会話を集中的に学び、段階的に作文や読解を学ぶという体系的な日本語の学習過程が確立している。合肥学院の日本語学科の特徴としては、実用的な日本語を身につけるとともに「国際貿易」に焦点を合わせた科目がカリキュラムに取り込まれている点である。3年次からの必修科目になっている「国際貿易実務」、「ビジネス日本語会話」、「ビジネス日本語作文」、専門科目の「日本ビジネスマナー」、「日本語翻訳理論・実践」、「日本語通訳理論・実践」、「異文化コミュニケーション」等は卒業後の進路を「国際貿易」関係分野と見据えて構成されている。卒業後の進路に関しては、全体の4分の1の7名の学生が国内や日本の大学院に進学し、残りの4分の3の学生は日系企業に6割、現地の中国企業に4割が就職するという。

日本語の資格試験に対応する科目は設定されていないが、卒業要件として大学日本語専攻生能力試験(NSS)4級の合格が義務付けられており、日本語専攻の学生全員が2年生の第2学期に大学日本語専攻生能力試験4級を、3年生の第1学期に日本語能力試験N1を、4年生の第1学期に大学日本語専攻生能力試験8級を受けるそうだ。合格率は全国平均をはるかに上回り、8級の合格率が93%に達したと言う。

### 2.2.2 合肥学院の要望事項

日本の大学への要望としては、学術・学生交流協定の締結、短期交換留学制度やダブル・ディグリー制度の推進、大学院進学制度の樹立の4点が挙げられる。

現在、合肥学院は日本の大学の中では、久留米大学と桜美林大学と交流があるとのことである。久留米大学とは、10年前から1、2回短期の学生交流をした程度であり、桜美林大学とは2014年度に学術・学生交流を締結したと言う。合肥学院外国語学部朝鮮語学科は、韓国の大学と双方の大学の学位が取得できるダブル・ディグリー制度(2+2制度)を提携しており、ドイツ語学科も2+3制度を運用しているので、日本語学科も日本の大学とダブル・ディグリー制度を積極的に運用していきたいとのことである。また、2014年まで協定校がなかった関係で半年間から一年間の短期交換留学制度も活用で

きない状況であったが、今後は協定校を増やし制度化し学生の派遣を推進していきたいとの希望を持っている。合肥学院では、主に韓国やドイツから50名ほどの留学生を受け入れているが、学内に学生寮があり国際教育学院で中国語教育のプログラムも運営されているので、今後は日本の協定校からも留学生の受入れが期待される。

さらに、日本の大学院の進学に関しても、現在までは日本の大学院に進学する場合、日本語学校で就学した後、大学院の入試を受けるというルートで進学していた。今後は、協定校を介して中国現地で入試が行えるシステムの構築が望まれる。

### 2.3 安徽外国語学院における日本語教育

安徽外国語学院は、2002年に安徽外国語職業技術学院として創設され、2011年に三年制に加え四年制の外国語及び職業訓練に特化した私立大学となった。2014年現在、東方言語・西方言語・国際商務・国際経済・国際観光学部等7学部45学科（四年制学科：18学科、三年制学科：27学科）に教員約600名が教鞭を執り、およそ10,000名の学生が学んでいる。

安徽外国語学院には東方言語学部日本語と朝鮮語学科、西方言語学部には英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、スペイン語学科があり、日本語系には四年制(本科)の日本語学科と三年制(専科)の応用日本語学科・商務日本語学科・観光日本語学科・ホテル管理日本語学科がある。

四年制の本科は、2011年度から学生を募集しており2014年現在、3年生が最も上の学年であるが、1年生が100名、2年生が126名、3年生が98名の計324名が在籍している。三年制の専科は、1年生が約200名、2年生が約200名、3年生が約500名の計958名が在籍し、年々学生数の減少が見受けられる。四年制はビジネス日本語か観光日本語のいずれかのコースが選択できるようになっており、三年制は応用日本語、ビジネス、観光、ホテル管理と学科が分かれているが、カリキュラム内の日本語科目においては同様のものを受講する。

教員は日本語非母語話者(ノンネイティブ)29名と日本語母語話者(ネイティブ)3名が所属している。日本語母語話者教員は協定を結んでいる日本語学校や知り合いの紹介による現地採用で、会話や作文、聴解、観光日本語、ビジネス日本語等の科目を担当している。



### 2.3.1 安徽外国語学院の日本語教育カリキュラム

安徽外国語学院東方言語学部日本語学科では、2014年現在、4年生までの卒業要件として185単位を取らなければならない、その中で日本語の授業科目の単位数はビジネス日本語コースの場合106単位、観光日本語コースの場合104単位である。また、三年制の日本語の授業科目の単位数は、四年制の1年生の1学期から2年生の2学期までの科目に「日本語翻訳」と「経済貿易日本語」を加えた62単位である。以下、表3に日本語学科のカリキュラムを挙げる。

表3. 安徽外国語学院東方言語学部日本語学科（四年制）の日本語教育科目

課程	区分	科目名	単位数	学期	時間数	教科書
基礎 必修	科目	日本語精読1	8	1	8コマ/週	『新編日語』1 上海外国語出版社
		日本語精読2	8	2	8コマ/週	『新編日語』2 上海外国語出版社
		日本語精読3	8	3	8コマ/週	『新編日語』3 上海外国語出版社
		日本語精読4	8	4	8コマ/週	『新編日語』4 上海外国語出版社
		日本語精読5	8	5	8コマ/週	『新編日語』5 上海外国語出版社
		日本語精読6	8	6	8コマ/週	『日本語総合教程』5 上海外国語教育出版社
		日本語会話1	2	1	2コマ/週	『日語会話基礎編』上册 外語教学与研究出版社
		日本語会話2	2	2	2コマ/週	『日語会話基礎編』上册 外語教学与研究出版社
		日本語会話3	2	3	2コマ/週	『日語会話基礎編』下册 外語教学与研究出版社
		日本語会話4	2	4	2コマ/週	『日語会話基礎編』下册 外語教学与研究出版社
		日本語会話5	2	5	2コマ/週	『日語会話商務編』外語教学与研究出版社
		日本語会話6	2	6	2コマ/週	『日語会話商務編』上册 外語教学与研究出版社
		日本語聴解1	2	2	2コマ/週	『日語听力課堂』1 外語教学与研究出版社
		日本語聴解2	2	3	2コマ/週	『日語听力課堂』2 外語教学与研究出版社
		日本語聴解3	2	5	2コマ/週	『日語听力課堂』3 外語教学与研究出版社
		日本語聴解4	2	6	2コマ/週	『日語听力課堂』4 外語教学与研究出版社
		日本語文法1	2	2	2コマ/週	『現代日語語法』外語教学与研究出版社
		日本語文法2	2	3	2コマ/週	『現代日語語法』外語教学与研究出版社
		日本語文法3	2	5	2コマ/週	『現代日語語法』外語教学与研究出版社
		日本語読解1	2	3	2コマ/週	『新編日語泛読』1 外語教学与研究出版社
		日本語読解2	2	4	2コマ/週	『新編日語泛読』1 外語教学与研究出版社
		日本語読解3	2	6	2コマ/週	『新編日語泛読』1 外語教学与研究出版社

		日本語作文1	2	3	2コマ/週	『基礎日語写作』外語教学与研究出版社
		日本語作文2	2	4	2コマ/週	『基礎日語写作』外語教学与研究出版社
		日本語作文3	2	5	2コマ/週	『実用日語写作教程』上海外語教育出版社
		日本概況1	2	4	2コマ/週	『日本概況』北京大学出版社
		日本概況2	2	5	2コマ/週	『日本概況』北京大学出版社
		日本概況3	2	6	2コマ/週	『日本概況』北京大学出版社
		上級視聴解	2	6	2コマ/週	『日語視聴説教程』外語教学与研究出版社
		日本語翻訳	2	6	2コマ/週	『新編日翻譯教程』大連理工大学出版社
		経済貿易日本語	2	6	2コマ/週	『高級実用経貿日語』外語教学与研究出版社
		合 計	98		98コマ/週	
ビジ ネス 日語 必修	選択	ビジネス日本語1	2	5	2コマ/週	『新編国際貿易日語実務教程』外語教学与研究出版社
	必修	ビジネス日本語2	2	6	2コマ/週	『新編国際貿易日語実務教程』外語教学与研究出版社
	科目	ビジネス文書	2	6	2コマ/週	『日語商業新函』大連理工大学出版社
	必修	国際貿易実務	2	6	2コマ/週	『国際商務基礎編と実務』中国商務出版社
		合 計	8		8コマ/週	
観光 日語 必修	選択	ガイド日本語1	2	5	2コマ/週	『全国導遊基礎知識』安徽人民出版社
	必修	ガイド日本語2	2	6	2コマ/週	『旅遊日語』上海交通大学出版社
	科目	ガイド知識	2	6	2コマ/週	『安徽導遊基礎知識』安徽人民出版社
		合 計	6		6コマ/週	

表3を見ると、安徽農業大学、合肥学院と同様、大学入学前は日本語を学習したことがないゼロ初級の学習者に対して作成されたカリキュラムであることがうかがえる。また、使用されている教科書に関しても、根幹科目である「日本語精読」は、高等教育の日本語専攻者向けのシラバス(教学大綱)に準拠したものである。その他のカリキュラムに関しても「話す・聞く・読む・書く」の四技能を体系的に学習し日本語能力の基礎を固めた上で、ビジネス日本語か観光日本語のいずれかを選択し、専門的な日本語力が育成できるように構成されている。また、「日本語会話」や「日本語作文」では、上級レベルになると前者は『日本語会話ビジネス編』、後者は『実用日本語作文教程』という教科書を使用し、ビジネスに特化した技術の習得を目指していることが分かる。さらに、基礎必修科目として「日本語翻訳」と「経済貿易日本語」があり、卒業後の進路を見据えて実践的な能力の養成を目的としていることが見受けられる。それらの基盤的な日本語力を2年時までまでに学習し、3年時には

ビジネス日本語コースか観光日本語コースに分かれて国際貿易と観光に特化した理論と実践的な専門日本語を体系的に学習できる構成になっている。

実際、安徽外国語学院では大学全体で就職に力を入れており、就職率は90%以上に達し、安徽省教育厅から「優秀な安徽省大学・学院学生就職スポンサー」の称号が授与されているとのことである。四年制の日本語学科はまだ卒業生が存在しないが、三年制では例年、進学が1割で就職が9割であり、就職する学生の中で日本語と関係のある企業に7割、地元企業や公務員になる学生が3割を占めると言う。ちなみに、2014年に三年制の学生が四年制への編入試験に合格したのは17名で、四年制の3年次に入学するそうだ。

日本語の資格試験については、安徽外国語学院では卒業要件として四年制は日本語能力試験N2または大学日本語専攻生能力試験4級に、三年制は日本語能力試験N3に合格しなければならないことが定められている。2年生の1学期から日本語能力試験に挑戦するが、三年制の学生の日本語能力試験N2の合格率は80%以上、N3の合格率は90%以上とのことである。また、三年制の観光日本語学科の学生は、ガイド資格試験の合格率が88%に達しており、安徽省レベルの優秀コースとして「安徽省特色専攻」に選ばれたそうだ。

### 2.3.2 安徽外国語学院の要望事項

日本の大学への要望としては、短期交換留学制度やダブル・ディグリー制度の推進、大学院進学制度の樹立の3点が挙げられる。

まず、安徽外国語学院は、日本の協定校として千葉科学大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、十文字学園女子大学、北陸大学の5校があり、その他日本語学校では、久留米ゼミナール、A.C.C.国際交流学園の2校がある。千葉科学大学とは、2013年度に日中双方の学位が取得できる2+2のダブル・ディグリー制度を締結したが、その制度を利用している学生はまだいないとのことである。また、協定校はあるものの協定校に短期交換留学や編入入学をする学生も皆無であり、双方向の受入れ制度が整っていない状況である。実際、安徽外国語学院には留学生の受入れ施設を含めて対留学生用のカリキュラムがなく、今後双方向の学術・学生交流を進めていく上で大きな課題と言える。さらに、三年制の学生の中には協定を結んでいる日本語学校に自力で留学した後、日本の大学に進学する学生も年に10数名程度存在しているが、それは大学の交換留学制度を利用したわけではなく、安徽外国語学院を退学して留学をしているとのことである。このように、協定校との学術・学

生交流を推進するためには、両者の受入れ環境を整えるとともに制度の見直しに取り組むべきであろう。

## 2.4 安徽中澳科技職業学院における日本語教育

安徽中澳科技職業学院は、2003年に設立された三年制の職業教育に特化した国立短期大学である。2014年現在、コンピュータ・国際ビジネス・管理・基礎学部の4学部27学科に教員約180名が教鞭を執り、およそ3,000名の学生が学んでいる。ビジネス日本語学科は国際ビジネス学部の中にあり、75名の学生が所属している。内訳は、1年生15名、2年生18名、3年生42名であり、日中の国際関係が悪化してきた2012年度入学の2年生から学生数が激減している<sup>9)</sup>。2015年度からはビジネス日本語学科は、一定の学生数を確保できないため学生の募集を停止することが決定しており、学生を採らなくなるとのことである。教員は日本語非母語話者(ノンネイティブ)が6名、日本語母語話者(ネイティブ)が1名所属している。しかし、2015年度からは、学科の廃止に伴い、専任の教員が日本語非母語話者教員3名のみになる予定である。日本語母語話者教員はJICAの海外青年協力隊の派遣による教員で、日本語教育を専攻し修士課程まで修了している。担当科目は、会話や作文、読解、ビジネス日本語等である。

### 2.4.1 安徽中澳科技職業学院の日本語教育カリキュラム

安徽中澳科技職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科では、2014年現在、3年生までの卒業要件として日本語の授業科目は129単位が必要である。以下、表4に日本語学科のカリキュラムを挙げる。

表4. 安徽中澳科技職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科の日本語教育科目

課程	区分	科目名	単位数	学期	時間数	教科書
専門 必修	科目	基礎日本語 1	8.0	1	10コマ/週	『基礎日本語』1 上海交通大学出版社
		基礎日本語 2	10.0	2	10コマ/週	『基礎日本語』1・2 上海交通大学出版社
		基礎日本語 3	10.0	3	10コマ/週	『基礎日本語』2・3 上海交通大学出版社
		基礎日本語 4	10.0	4	10コマ/週	『基礎日本語』3 上海交通大学出版社
		日本語聴解 1	3.0	1	4コマ/週	『日語聴解教程』1 上海外国語教育出版社
		日本語聴解 2	4.0	2	4コマ/週	『日語聴解教程』1・2 上海外国語教育出版社
		日本語聴解 3	4.0	3	4コマ/週	『日語聴解教程』2・3 上海外国語教育出版社

		日本語聴解 4	4.0	4	4コマ/週	『日語聴解教程』3 上海外国語教育出版社
		日本語会話 1	4.0	1	4コマ/週	『みんなの日本語』初級Ⅰ 外国語研究出版社
		日本語会話 2	4.0	2	4コマ/週	『みんなの日本語』初級Ⅰ 外国語研究出版社
		日本語会話 3	4.0	3	4コマ/週	『みんなの日本語』初級Ⅱ 外国語研究出版社
		日本語会話 4	4.0	4	4コマ/週	『みんなの日本語』初級Ⅱ 外国語研究出版社
		日本語閱讀 1	2.0	3	2コマ/週	『読解を始めるあなたへ』日本語教育研究所
		日本語閱讀 2	2.0	4	2コマ/週	『読解を始めるあなたへ』日本語教育研究所
		JTEST 試験指導 (初級 E-F)	4.0	3	4コマ/週	JTEST 考試指南 文法・語彙(初級 E-F) 華東理工大学出版社 JTEST 實用日本語檢定考試 北京語言大學出版社
		日本語能力測定 試験指導	4.0	4	4コマ/週	『新日本語能力試験考前対策 N2 語彙・文法・聴解・読解』世界図書出版社
		日本概況	2.0	4	2コマ/週	『日本国概況』上海交通大学出版社
		日本語翻訳	2.0	4	2コマ/週	『実用日語翻訳』上海交通大学出版社
		日本語作文	2.0	5	4コマ/週	『らくらく日本語ライティング』アルク
		日本語視聴解	2.0	5	4コマ/週	
		日本語ビジネス文書	2.0	5	4コマ/週	『日本語ビジネス文書マニュアル』アスク出版
		ビジネス日本語会話	2.0	5	4コマ/週	『新装版ビジネスのための日本語』スリーエーネットワーク
		ビジネス日本語	3.0	5	6コマ/週	『実用商務日語』上海交通大学出版社
		合 計	96.0		110コマ/週	
総合 実践 必修	必修 科目	日本語言語技能総合実践1	1.5	1	2コマ/週	
		日本語言語技能総合実践2	2.0	2	2コマ/週	
		日本語言語技能総合実践3	2.0	3	2コマ/週	
		日本語言語技能総合実践4	2.0	4	2コマ/週	
		日本語言語技能総合実践5	2.0	5	2コマ/週	
		日本企業文化知覚1	1.5	1	2コマ/週	『時事報告大学生版』中宣部時事報告雜誌社
		日本企業文化知覚2	2.0	2	2コマ/週	『時事報告大学生版』中宣部時事報告雜誌社
		日本企業文化知覚3	2.0	3	2コマ/週	『時事報告大学生版』中宣部時事報告雜誌社
		日本企業文化知覚4	2.0	4	2コマ/週	『時事報告大学生版』中宣部時事報告雜誌社
		日本企業文化知覚5	2.0	5	2コマ/週	『時事報告大学生版』中宣部時事報告雜誌社
		社会実践	2.0	2・4	4週	
		卒業設計(論文)	4.0	5	8週	
		卒業実習(実習)	8.0	6	16週	
				合 計	33.0	

表4を見ると、一般の四年制大学同様、大学入学前は日本語を学習したことがないゼロ初級の学習者に対して作成されたカリキュラムであることが分かる。また、使用されている教科書に関しても、根幹科目である「基礎日本語」と「日本語聴解」は、高等教育の日本語専攻者向けのシラバス(教学大綱)に準拠したものである。日本語母語話者教師が担当している会話や作文、読解は日本で市販されている教材を使用しているが、基盤科目の進度に合わせて段階的に教えており、四技能の「話す・聞く・読む・書く」を系統立てて学習していることが見受けられる。また、ビジネスに特化した「ビジネス日本語」、「ビジネス会話」、「ビジネス文書」、「日本語言語技能総合実践」という実践的な科目に加え、「日本企業文化知覚」といった理論的なビジネス知識に関しても初年次から体系的に学習している。さらに、「国際貿易理論と実務」や「市場販売流通実務」等の科目も必修科目になっており、ビジネスに関する理論と実践的な能力の養成を目的としている。その上、「社会実践」としてインターンシップが1・2年生の二学期に4週間、3年生の二学期に8週間設定されており、卒業後の就職を見据えた職業教育に特化したカリキュラムの編成となっている。卒業生の進路としては、毎年、進学する学生が1割程度で、それ以外の9割の学生は日系企業に2割、公務員に3割、地元企業に5割程度就職すると言う。日本語能力の高い学生のほとんどが日本語に関連のある仕事をしているようだ。

日本語の資格試験については、安徽中澳科技職業学院では卒業要件として中国国内の試験で人力資源部認定の「職業日本語資格試験」か「実用日本語検定試験(JTEST)」の初級、または「日本語能力試験」N3に合格しなければならないことが定められている。「JTEST 試験指導」と「日本語能力測定試験指導」という試験対策の科目がカリキュラムに設定されており、試験は2年生の1学期から受け始めるとのことである。

#### 2.4.2 安徽中澳科技職業学院の要望事項

日本の大学への要望としては、短期交換留学制度やダブル・ディグリー制度、大学進学制度の樹立の3点が挙げられる。

まず、短期交換留学制度としては、夏季または冬季休業中に一ヶ月ほど語学や文化を学ぶことができるコースや半年から一年間の短期交換留学コースへの参加を希望している。安徽中澳科技職業学院は、ビジネスに特化した短期大学のため、現在まで協定校はなく留学生の受入れも全くない状況である。

日本の学校との学生交流としては、2010年12月に高知県商業高校が安徽中澳科技職業学院に来訪し一日のみの交流を持ち、双方ともに満足度の高い交流が行われた。その後、2011年の東日本大震災時と2012年の中国四川省文川地震の際に両校の学生が互いに慰安の手紙により交流を深めたとのことである。このような学生交流を日本の大学と協定を結んで行うとともに、教員にとっても交換研修制度があれば学位の取得が容易になると考えられる。現在、中国の教育部では現職教員の修士学位の取得を推奨しており、大学での教育内容に即した日本語教育専門の修士学位の取得が望まれているとのことである。

また、ダブル・ディグリー制度や大学進学制度の樹立に関しては、安徽中澳科技職業学院では中国国内の大学に進学する学生とともに日本の大学に進学する学生も毎年何名かいる。前者の場合、安徽省統一の編入試験を受け四年制（本科）大学の3年次に入學する。後者の場合、来日後日本語学校で一年間勉強してから大学へ進学するとのことである。そこで、日本の大学に進学したい場合、日本現地で受け入れ可能な大学との協定を締結し、中国現地でも入学試験が受けられるような体制が整えられることが望まれる。

## 2.5 安徽城市管理職業学院における日本語教育

安徽城市管理職業学院は、1981年に安徽省立の四年制大学である安徽省直職工大学として設置されたが、その後2003年に職業教育に特化した三年制の省立短期大学になった。2014年現在、都市建設・情報工学・都市設計・国際ビジネス・経営管理・財務金融・現代サービス・公共教育学部の8学部34学科に教員365名が所属し、在校生は9,000名程度である。国際ビジネス学部の中にビジネス日本語・ビジネス英語・応用英語・観光英語・電子商取引学科があり、ビジネス日本語学科は2011年に設置されている。

2014年現在、ビジネス日本語学科には1年生29名、2年生42名、3年生60名、合計131名が在籍している。日本語を入門から体系的に学習していき、日本語以外にもビジネスに必要な「国際貿易実務」や「貿易証明書作成」等のビジネスに直結する理論や技術も学ぶ。専任教員は、日本語非母語話者（ノンネイティブ）3名のみであり、非常勤講師として日本人教員が週1回来校し、実用的な授業である「日本語会話」、「ビジネス日本語会話」、「日本語貿易通信文書」を担当している。

## 2.5.1 安徽城市管理職業学院の日本語教育カリキュラム

安徽城市管理職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科では、2014年現在、日本語の授業科目の単位数は77単位である。以下、表5にビジネス日本語学科のカリキュラムを挙げる。

表5. 安徽城市管理職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科の日本語教育科目

課程	区分	科目名	単位数	学期	時間数	教科書
基礎 必修	必修 科目	基礎日本語 1	8	1	8コマ/週	『新編日語』1 上海外語教育出版社
		基礎日本語 2	8	2	8コマ/週	『新編日語』2 上海外語教育出版社
		基礎日本語 3	8	3	8コマ/週	『新編日語』2 上海外語教育出版社
		基礎日本語 4	8	4	8コマ/週	『新編日語』3 上海外語教育出版社
		基礎日本語 5	4	5	4コマ/週	『新編日語』3 上海外語教育出版社
		日本語聴解 1	4	1	4コマ/週	『日本語听力』入門編 華東師範大学出版社
		日本語聴解 2	4	2	4コマ/週	『日本語听力』1 華東師範大学出版社
		日本語聴解 3	4	3	4コマ/週	『日本語听力』2 華東師範大学出版社
		日本語聴解 4	4	4	4コマ/週	『日本語听力』3 華東師範大学出版社
		日本語会話 1	4	1	4コマ/週	『日語会話』1 大連理工大学出版社
		日本語会話 2	4	2	4コマ/週	『日語会話』2 大連理工大学出版社
		日本語読解 1	3	3	3コマ/週	『日語泛読(第二版)』大連理工大学出版社
		日本語読解 2	3	4	3コマ/週	『日語能力試験 2級読解』東華大学出版社
		日本語作文	3	4	3コマ/週	『日語写作』大連理工大学出版社
		日本語概況	3	3	3コマ/週	『日本概況』大連理工大学出版社
合 計			72		72コマ/週	
選択 必修	選択 科目	ビジネス日本語会話	2	3	2コマ/週	『ビジネス日本語会話』大連出版社
		日本語貿易通信文書	3	4	3コマ/週	『外貿日語函電』大連理工大学出版社
合 計			5		5コマ/週	

表5を見ると、大学入学前は日本語を学習したことがないゼロ初級の学習者に対して作成されたカリキュラムであることが見受けられる。また、使用されている教科書に関しても、根幹科目である「基礎日本語」は、高等教育の日本語専攻者向けのシラバス(教学大綱)に準拠したものである。会話や聴解に関しても基盤科目の進度に合わせて入門から段階的に教えている。さらに、カリキュラムに関しても基礎必修科目として「話す・聞く・読む・書く」



の四技能を系統的に学習し日本語能力の基礎を固めた上で、最終的に「ビジネス日本語会話」と「ビジネス貿易文書」について学ぶという構成になっている。

このように、安徽城市管理職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科では、基礎的な日本語力を身に付けた上で国際貿易に特化した実践的な専門性を学ぶことを目標としている。ビジネス日本語学科は2011年に設置されたので、3年生が初めての卒業生であるが、彼らの進路としては60名中2名が四年制大学に進学し、1名が日系企業の通訳、他はレストランやホテル、不動産会社等中国の現地企業に就職するという。2年生の42名中6名は、2014年9月から日本の業者を通してホテル研修生として東京で一ヶ月間研修を受けた後、全国のホテルに派遣され一年間の職業訓練を受けるプログラムに参加するとのことであり、徐々に日本語と関係のある職に就く学生が増えていくと考えられる。

日本語の資格試験については、安徽城市管理職業学院では卒業要件としては特に定められていない。しかし、読解や聴解の授業で日本語能力試験や職業日本語資格試験である三年制(専科)向けのJTESTの過去の問題を解き、2年生の後半から受けることを推奨している。

### 2.5.2 安徽城市管理職業学院の要望事項

日本の大学への要望としては、夏季休業を利用した学生の短期文化体験や語学学習プログラムへの参加、4年制大学への進学制度やダブル・ディグリー制度の樹立の3点が挙げられた。

安徽城市管理職業学院は、3年制の職業教育に特化した短期大学であり日本に協定校が存在しない。大学全体で留学生も受け入れておらず、上述した3点に関しても暗礁に乗り上げている状況である。2.5.1で述べたように、日本での職業訓練研修に参加する学生も一定数おり、日本語レベルがある一定の水準に達している学生の場合、日本への進学も検討しているとのことである。そのため、現在、海外の大学との提携関係を積極的に築く努力をしており、中国の大学で2年間日本語を勉強した後、日本の四年制大学で2年間学習し日本の大学の学士号が取得できるような制度が樹立できればと考えていると言う。2015年度にビジネス日本語学科への入学者数が15名以下の場合、学科が廃止されることが決定されたとのことであり、学科の存亡をかけて急遽取り組まなければならない課題と言える。

### 3. 中国の高等教育における日本語教育に対する提言

中国安徽省合肥市内にある日本語学科を有する主要な大学を訪問し、日本語教育事情について聴き取り調査したところ、以下の点が問題点として挙げられた。主に、日本の大学との学術・学生交流の問題、教員の専門性不足の問題、日本語の学習環境の整備の問題の3点に分けて考えてみたい。

まず、日本の大学との学術・学生交流の問題であるが、今回調査をした四年制の一般大学は日本に協定校を有し、短期交換留学制度を活用している大学もあるが、三年制の大学に関しては協定校の締結に至っていないというのが現状である。これは、学術・学生交流には相互に対等な交流が求められるため、同レベルの日本の大学で双方向に交流できる受入れ体制を整える必要が生じるためである。三年制の大学は、学生の派遣はできても留学生の受入れ体制の整備に問題を有すると言わざるを得ない。また、四年制の大学においても、協定校との学生交流は緒に就いたばかりであり、今後の短期交換留学制度やダブル・ディグリー制度の円滑な活用が期待される。日本の大学院の進学については本学でも高知大学安徽事務所を通して中国現地における進学説明会の開催や大学院入試制度を整え、大学院への留学希望者に対して情報の提供や相談窓口を常時開設する必要がある。また、試験のために来日することなしに中国現地で入試が行えるよう体制を構築し、海外事務所を活用した留学生の受入れ体制を整えるべきである。

次に、教員の専門性の不足の問題である。中国では、日本語教育専門の学科を持つ大学が非常に少ないが、その反面、ほとんどの大学で第二外国語としての日本語を含めてカリキュラムの中に日本語の授業が取り入れられている。その結果、文学や語学を専攻した教員が日本語教育の現場で学生の指導にあっているのが現状である。日本語教育を専門としない教師が増えていくことは、中国の日本語教育全体を活性化させることにはなるが、専門知識が浅く、日本語教育研究を深め、その学問的価値を高める意識が育ちにくい傾向にあると言える。現に、今回調査した5校の日本語非母語話者日本語教師54名と日本語母語者日本語教師7名のうち日本語教育が専門の教員は、それぞれ1名のみであった。また、日本文学や日本語学、日本文化を専攻した教員がほとんどを占めるが、三年制の大学においては主専攻がコンピュータや物理で日本語は副専攻という教員も存在した。中国の教育部により現職教員の修士学位の取得が推奨されているため、四年制大学の非母語話者教師はほとんどの教員が修士学位を取得しており、学位を有していない教員も現在、

大学院に通っているところであったが、三年制大学は半数以上の教員が修士学位を有していなかった。しかし、三年制大学においても若手の教員は、修士学位を有していないと就職が困難になってきているため、ほぼ学位を有していた。日本語母語話者教師は、7名中3名が修士学位を有しており、今後は徐々に修士学位や専門性を有している教員が求められる傾向がうかがえる。

このような日本語を教える教員の専門性の向上については、中国各地で開かれる日本語教師研修会や研究会への参加、日本人教師会による勉強会等が考えられる。前者については、国際交流基金北京日本文化センターの専門家が出向いて行われる地域巡回日本語教師研修会が2011年と2013年に合肥市で行われており、日ごろの授業を第二言語習得理論に基づき振り返る機会となった。また、後者についても各地で行われる研究会や日本人教師会による勉強会に参加することにより、実践的な教育の見直しとともに教師同士の情報交換の場にもなり横の繋がりが深まることになるであろう。

最後に、日本語の学習環境の整備についてである。合肥市は、上海から高速列車で3時間の内陸に位置し、2014年現在、経済開発特別区を中心に日立建機等日系企業が70社ほどあるが、普段接することができる日本人は日本人教師等一部に限られている。今回調査を行った高等教育機関は四年制の一般大学と三年制の職業教育に特化した短期大学という違いはあるものの、双方ともにカリキュラムには実践的なビジネス日本語教育が含まれており、卒業後の就職を見据えた教育が行われている。しかし、現在、高等教育機関における日本語専攻者の就職難に加え、近年の日中関係の冷え込みの影響を受け、高等教育機関で日本語を専門とする学生が徐々に減少してきている。特に、三年制の短期大学に至っては、日本語学科の存続が危ぶまれる危機に直面している。このような現状を打開するためには、高等教育機関同士の連携や地域の日系企業との提携が望まれる。合肥市には、合肥日本語教師会が存在し、日本人教師同士及び中国人教員と相互に学び合いながら交流できる研修会や授業参観、ピア・レビュー活動等が実施されている。また、地域の日系企業が主催した「合肥中日人民民間友好文化交流デー」には、合肥市内の9大学の学生が参加し、各大学による出し物やスピーチ大会等が行われた。その他にも、日系企業の見学会やビジネスマナー講習会、インターンシップを含む企業研修プログラム等の交流が高等教育機関と現地企業の間で行われるような環境作りを推進していくべきである。

#### 4. おわりに

中国の高等教育機関における日本語教育事情の調査を通じて、今後求められる日本語教育のあり方について考察をしてきた。中国の高等教育機関では、グローバル化に伴い今後ますます協定校間の交流が活発になり、国際的に活躍できる人材の育成に力を入れることになる。日本語を教える日本語非母語話者教師についても専門性が求められつつあり、日本語母語話者教師に関しても応募条件として修士学位以上の専門性が必要になってきている。日本語の学習環境の整備については、現場の日本語教師が高等教育機関と現地企業との橋渡しの役割を果たし、地域を挙げての高等教育機関同士の連携や高等教育機関と現地企業との提携が推進されることが望まれる。それにより、中国における日本語教育全体が活性化され、日本語を専攻している学生の就職難の改善にも繋がることが期待される。

今後は、中国で求められる日本語教師の役割に焦点を当て、中国の高等教育の現状を踏まえて日本語非母語話者教師と日本語母語話者教師、学習者の三者が考える教師に役割について明らかにしていきたい。

#### 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、安徽農業大学外国語学院日語系の王川主任、合肥学院外国語学院日語系の鮑徳裕主任、安徽外国語学院東方言語学院の張勝芳副院長、安徽中澳科技職業学院国際商務学院商務日語系の劉曉春主任、安徽城市管理職業学院国際商務学院商務日語系の田甜主任に貴重な資料を提供していただき、インタビュー調査にご回答いただいた。また、各大学において非常に多くの先生方にご協力いただき、お世話になったことに対して心より感謝の意を申し上げます。

#### 注

- 1) 日本学生支援機構 HP 「平成26年度外国人留学生在籍状況調査等について一留学生受入れの概況一」  
[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/data14\\_brief.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data14_brief.pdf) (accessed 2015/11/19)
- 2) 国立大学法人高知大学広報戦略室(2015)「外国人留学生在籍状況」『国立大学法人高知大学概要』国立大学法人高知大学、p.46
- 3) 国際交流基金 HP 「日本語教育 国・地域別情報 2014年度中国」

<http://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/china.html> (accessed 2015/11/19)

- 4) 高等教育においては、修士の学位を持たない現職教師を対象に在職しながらの学位取得を奨励している。
- 5) 中国教育部が1995年に定めたもので、21世紀に向けて中国の100の大学に重点的に投資していくとしたものである。
- 6) 安徽農業大学外国語学部日本語学科の学生数は年により変動がある。これは、中国の教育部の方針で教員に専門の修士学位の取得を推奨しており、専任教員が日本に学位取得のための研修に行き人数が少ない年は1クラス(45名)、教員が揃っている年は2クラス(60名)の受入れとなっているためである。
- 7) 外国人教員は、本来就労ビザを取得するが、就労ビザの取得に年齢の制限(60歳以下)が課され、文化交流ビザ(F類)での滞在を余儀なくされている。
- 8) ここで言う学期とは、中国では2学期制のため、1年生から4年生までを8学期に分けて示したものである。以下、同様に記述。
- 9) 安徽中澳科技職業学院国際ビジネス学部ビジネス日本語学科の入学者数は2006年度が133名、2007年度が178名でピークであったが、2008年度が80名、2009年度が97名、2010年度が80名、2011年度は42名であり、東日本大震災を契機に徐々に学生数が減少してきた。日中関係の悪化と就職難により3年制の職業短期大学の入学を敬遠する傾向にあるとのことである。

## 参考文献

- 今西利之・小脇光男・松瀬成子(2008)「『協定校における日本語教育における現状調査』報告」『熊本大学留学生センター紀要』第11号、熊本大学留学生センター、pp.51-70
- 今西利之・マステン眞理子・松瀬成子(2011)「『協定校における日本語教育における現状調査』報告2」『熊本大学国際化推進センター紀要』第2号、熊本大学国際化推進センター、pp.33-50
- 大塚薫(2014)「中国における日本語教育事情―協定校間の教育・学術連携調査を通して―」『高知大学留学生教育』第8号、高知大学国際・地域連携センター国際連携部門、pp.103-128
- 大塚薫・若月祥子(2002)「韓国の大学における母語話者教師と非母語話者教師の役割について」『日本語学研究』第5輯、韓国日本語学会、pp.75-84
- 京都大学研究国際部留学生課(2013)「アドミッション支援オフィスによる中国語圏の

- 入学志願者に対する出願支援」『ウェブマガジン「留学交流」』 Vol.27、独立行政法人日本学生支援機構
- 国際交流基金(2013)『2012年度日本語教育機関調査 結果概要 抜粋』  
[http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf)
- 国際交流基金(2015)「日本語教育 国・地域別情報 2014年度中国」  
<http://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/china.html>
- 国立大学法人高知大学広報戦略室(2015)『国立大学法人高知大学概要』国立大学法人高知大学
- 田甜(2015)「中国安徽省の職業学院における日本語教育」  
[http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/report/docs/26th/ar26th\\_tian.pdf#search=%E5%AE%89%E5%BE%BD%E5%9F%8E%E5%B8%82%E7%AE%A1%E7%90%86%E8%81%B7%E6%A5%AD%E5%AD%A6%E9%99%A2](http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/report/docs/26th/ar26th_tian.pdf#search=%E5%AE%89%E5%BE%BD%E5%9F%8E%E5%B8%82%E7%AE%A1%E7%90%86%E8%81%B7%E6%A5%AD%E5%AD%A6%E9%99%A2)
- 独立行政法人日本学生支援機構(2015)「平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果」  
[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/documents/data14\\_brief.pdf](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data14_brief.pdf)
- 吉岡英幸(2008)『徹底ガイド 日本語教材』凡人社
- 林翠芳・大塚薫・渡辺春美(2009)「高知大学における『留学生30万人計画』の推進—現状及び課題—」『高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要』第3号、高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門、pp.103-117

おおつか かおる  
(高知大学国際連携推進センター国際教育連携部門准教授)